

2017年7月11日

ジャカルタ ジャパン クラブ
会員各位

ジャカルタ ジャパン クラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

1 最近の政治・治安情勢

6月25日、北スマトラ州警察本部にテロ容疑者2名が侵入し、警察官1名が刺殺される事件が発生した。

6月30日、南ジャカルタの国家警察本部に隣接するモスクで、男性がお祈りに参加していた警察官2名を刺傷する事件が発生した。

7月8日、バンドンの借家で爆発事件が発生し、当地報道等の情報によると、そこに住む男性の供述から、男性はレストランや教会を標的としたテロを計画していたようである。

最近のテロ行為の傾向として、これまで警察がテロ行為のターゲットになっていたが、今回のバンドンの事件では、不特定多数が集まるレストランや教会をターゲットとしていたとみられるところ、テロに巻き込まれないためにも、これまで「大使館からのお知らせ」等でお知らせしているとおり、できる限り警察署や警察官詰め所などの警察施設には近づかないようにし、宗教関連施設、公共交通機関、デパートなど不特定多数が集まる場所を訪れる際は、周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、速やかにその場を離れるなど安全確保に十分注意して頂きたい。

2 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(1) 最近、以下の事件・事案が発生。

当地警察等から、レバラン期間中において邦人が被害にあった重要犯罪等が発生したという情報には接していない。

これから夏期休暇の時期に入るため、海やプールに出かける機会も多くなると思われることから、海難事故に注意頂きたい。例年、夏季休暇中に多くの在留邦人が海水浴に行った際に海難事故に遭われるケースが報告されており、特に子供を同伴する際には、決して子供から目を離さないようお願いしたい。先月には、邦人ではなかったが、ジャカルタ市内のアパートのプールで幼児が溺れる事案が発生した。

アパートのプールであっても、子供だけで遊泳は行わせないとともに、保護者が同伴の場合でも、子供が水から上がるまで確実に見届けて頂きたい。特に多数の遊泳客で混雑している場合、これが原因となって幼児は水面に上がれないこともあるため、確実に見届けて頂きたい。

ラマダン期間中以外では、パンク強盗、スリ置き引き及び2人乗りバイクによるひったくり等、邦人の犯罪被害は引き続き発生しているため、今後も注意が必要である。

昨年、バングラデシュでの襲撃テロ事件から1年が経過し、最近も欧州、インドネシアを含むアジアの国でもテロが発生しているため、引き続きテロに対する警戒が必要である。

6月30日に大使館からのお知らせメールでも案内しているが、インドネシアにおける危険レベルについて、引き続きパプア州の一部及び中部スラウェシ州ポソ県については、レベル2「不要不急の渡航はやめてください」、右以外の地域についてもレベル1「十分注意してください」となっている。つまりは、危険度・脅威度は継続しているということである。詳細については、大使館からのお知らせメール又は当館ホームページでご確認頂きたい。

これから夏期休暇の時期であり、海外へ渡航する方も増えると思われるが、出発前に、海外安全ホームページで行き先の情報を確認するとともに、「たびレジ」に登録し、最新情報を入手するよう心がけて頂きたい。また、万一に備え、家族や友人、職場等に、行き先、日程及び連絡先を共有して頂きたい。

3 最近の医療事情等

- (1) 高病原性インフルエンザによる家禽大量死亡事案がアフリカや東南アジアで発生しており、インドネシア国内でも発生している。
- (2) デング熱の発症については、ジャカルタ市内では減少傾向であるが、インドネシア全体としては増加している。
- (3) マラリア原虫について、ジャワ州においてはあまり心配はいらぬが、アチェ州、スラウェシ州及びパプア州では注意が必要である。
- (4) バリ島において、昨年からの狂犬病ウィルスの検出件数が増加傾向にあり、バリ島を訪問する際は注意して頂きたい。

4 質疑応答、各社（団体）からの報告等

○日本からの当社出張者がスカルノ・ハッタ国際空港において、タクシーのなりすましによる詐欺被害が発生したところ報告する。出張者が空港到着後市内へ移動する際に、ゴールデンバード（以下、「ゴ社」という当地タクシー会社を利用しており、通常、空港内にあるゴ社窓口で配車手続きを行っているが、今回、（ゴールデンバードの電子掲示板に掲げてある情報を見て作成したと思える）ネームプレートを持ち、当該出張者の名前を呼んだため、出張本人は、ゴールデンバードタクシーと思い込み、犯人に着いていた。市内まで移動したところ、通常の数倍の金額を支払わされた。その後、同車両はゴ社のなりすましであることが判明し、ゴ社へ本件被害について報告したところ、警察と連携して乗車代を取り戻すことができた。本件はゴ社の電光掲示板を偽造する等非常に手口が巧妙であった。当社では、出張者に対して、空港到着時のタクシー移動については、必ず空港窓口で手続きを行うよう注意喚起するとともに、今後の対策について考えていきたい。

○6月22日、当校スクールバスが高速道路を走行中に投石被害にあった。警察によると、本事案は生徒を狙ったものではなく、不特定多数の走行車両に対する未成年者によるいたずら行為であり、日本人学校より警察及び高速道路管理会社に対して再発防止及び投石者への厳重注意について申し入れるとともに、保護者及び日本大使館（外務省・文科省）へ本件について報告を行った

以上